

橫濱能樂謠曲連盟會報

27 町内盟
4-83 町元會社
松文曲 町元會社
老生謠 町元會社
西生謠 町元會社
區生謠 町元會社
市生謠 町元會社
市民能 町元會社
濱市能 町元會社
濱市能 町元會社

日貿博に

能樂

三月十五日から日本貿易博覧會が横濱に開催される。市當局から藝能館の「コケラ落し」として、能樂を上演希望とあつて當連盟に紹介された。早速理事、相談役會打合せの後、各方面交渉の末、反町會場で、午後二時から（時間は都合に依り多少變更）左記の通り決定した。

舞臺開

觀世元正 高安滋男 安福春雄 觀世元信
狸々 北村一郎 寺井政數
後見 木原康次 地謙 淺見重弘 岡久雄
島澤啓次 武田四郎 武田太加志
淺根直孝 藤波順三郎
淺見重信 山階信弘

早春の役員會

一、日時 一月二十九日（土）二時—四時
一、場所 貿易博覧會事務局會議室

中村會長、上保副會長、今期中の出演は、濱鶴場三村常任、手東理事等役の「コケラ落し」として員十三名募集、市側より當局より演能を希望され吉田生活文化課長、中山た場合は悦んで其の斡旋藝能係長出席、昨年度の事業の反省と、本年度の如く入場料を徴収して興業的に行ふこと、能の意見の交換を行つた。當の發言要旨次の通り。

一、貿易博覧會に出演の件
第二號「は各流の消息」

「連合素議會の各流報告」
「新入會員名簿」等を骨子として編輯する。

機關紙は、各流が公平且有効に紙面を利用するやうに、會員各位の御協力を切望する。

尚、本紙に對する希望や、本連盟に對する批判は、御腹藏なくお洩らし願ひたい。

今後、輿論と經費の許す限り、本紙の發行を續けて行きたいと思ふから、投稿規定に依り有益な原稿を多數お寄せ願ひたい。（原原氏）

三、連合素議會
折角、各流合同して開催するのであるから、一會場で各流の議が聴ける

第二回役員會

一、日時 二月二十二日午前九時—十二時
一、場所 市會事務局内第四控室

中村會長、上保、梶木庄司の各副會長、並に三村、有馬、各常任理事外七名出席、會長より、貿易博覧會館「コケラ落し」に當局より能樂上演を希望されたので、別項記事の如く觀世並に高安の各家元に依り、舞臺開きを行ふ旨の報告あり、續いて探原常任より、投稿規

やうにしたい。そのため番數を少くするも止むを得ない。（松村氏）

同じ流儀の仕舞が多數連續すると、見る方が飽きる。尚、お菓子は要らぬが、お茶を豊富にお願ひしたい。（丸井氏代理）

四、連盟への希望
同じ出流の物で各流が競演し、各流の特徴を比較研究したい。尚、口傳や、着付、能面、型などの解説を、濱濱在任の先生方にお願ひしたい。（矢島氏）

五、會計報告
本連盟及第二回連合素議會の收支に關し、中山係長より詳細な報告があつた。（以上）

定の試案を示し、一同検討の結果、別項所載の通り決定した。

次に野毛山小劇場に租舞臺を設ける件に就き論議し、慎重審議の末、一應、連盟を主體として企劃し、然る後、市の支援を仰ぐべく交渉することゝなつた。

金澤區謠曲同好會について

三村健彰

私が横濱能樂謠曲連盟の常任理事をしてゐる關係から、之の連盟が眞に文化の存在となる様、努力を拂はねばならないわけだが、事はしらく簡單に參らぬと思はれる。私連盟の支部的存在とし、之を連盟に結び付けて行く事が連盟の發展強化の一方では無いかと考へ、昨夏私の主唱で區内の同好者に呼び掛け表題の會を作つて見た。私が金澤に來て日淺く知己多しに拘らず趣味の人の間に自らなる親しみが湧き、それに連盟の手東君や木村鐵治さん等の骨折りで十月十六日の發會式に準備不足に拘らず三十名程の會員が出來た。早速會の運営會員の増加を圖る爲め地區別に十名程の理事を定め私が提唱者といふ理由で會の基礎確立迄會長を仰せ付けられ副會長に手東、木村の二人が選出された。

以後十一月十四日、十月五日、本年一月十五日と月例會を開き會員も其の都度増え現在四十名を超えており近く區役所より大量の入會と富岡方面の同好者に入會して實に三月頃には七十名程に達すると思ふ。各流を網羅してゐるが之を取纏めて連盟に加入する手續を採る積りである。私は唯世話役といふ立場で會長をしてゐるが之を純な文化團體としてスキスクと發展させて行く様に骨を折つて行きたいと思ふ。連盟に一步先んじて能をやる事も考へてゐる。事務的な仕事は區役所の若い諸君がやつて呉れるので大變助つてゐる。目下事務所は便宜區役所の民生課に置き、毎月一回例會を開く事にし、之が連盟發展の一因子となる様育成して行きたいと思つてゐる。

各會場素議の切れ目が不揃ひなので、晝食後の仕舞は最後に廻して、あと増える。總計八十餘名、島澤師が鶴見に出張稽古日とあつて會長は面談に行く。驛の西口での話、當日東京に會合を引き受けて居るので、總持寺の各位へよろしくとの傳言を會長が持つて歸へる。

景清（シテ）清水保（ワキ）
山田（ヒメ）岸本（トモ）加瀬氏、天鼓（シテ）金子（ワキ）脇氏安達原（シテ）海老原（ワキ）増田（ツレ）清水。

鶴見の有志は梅若の井筒の地に參加して元氣なところを見せる。東芝の連中も、この次は是非一番受け持つてと諸ひたりな各會場とも素議は終了した。續いて仕舞獨吟等が始まる。

高安流（ワキ）和泉太郎師は特に羅生門の仕舞を演ぜられる。金春流の仕舞は次の通り。

第一回連合素議會

第一會場

第一會場は抽籤の結果觀世流が素議を始める。丸井師の外に、今回は島澤系の田邊竹生師、加藤雅雄師が地頭として最後列である。

（曲目）
（シテ）
竹生島 宮川
清經 豊田
松風 原田
晝食は交替で済ませる。

（ワキ）
八木 中野
佐藤 横山
米ノ井 小島

草紙洗と、仕舞は、花籠（クルヒ）小泉進吾師、女郎花、松山長昭師、最後は觀世流の仕舞、諸士太鼓、藤井、山姥（キリ）清水みゆき、山姥（タセ）清水（保）、玉之段、山田、菊慈蓮、岸本、獨脚丸井通子師仕舞は、東北、加藤雅雄師、東上、田邊竹生師、芭蕉（キリ）田邊定吉師、車僧、中村桃山師、高砂、蛭川英雄師、午後五時終了。

（第二會場）
一幹事さん、素議は陽氣のよい時期にやつて貰ひたいネ……炭火ひくとつ無い總持寺の廣間に、寒さうな顔が並んでゐるサ……「諸へば暖かくなるサ……」と諸が暖爐代りと思得てゐる諸曲第二藝術論者（？）の主唱に依り、當會場は先づ金春の富士太鼓から始まつた。ところが第二會場は、金春と寶生の合同會場であり、それに高安流が加はつてゐるので、これを旨く按排しなければならぬ。……そこで、寶生さんいかに、高安さんいかに、春さんいかに、と謙讓な人達を無理におもめた結果は次の様な奇妙な組合せになつてしまつた。

梅若は齋藤有弘師の獨吟

（曲目）
（シテ）
竹生島 宮川
清經 豊田
松風 原田
晝食は交替で済ませる。

（ワキ）
八木 中野
佐藤 横山
米ノ井 小島

（第二會場）
一幹事さん、素議は陽氣のよい時期にやつて貰ひたいネ……炭火ひくとつ無い總持寺の廣間に、寒さうな顔が並んでゐるサ……「諸へば暖かくなるサ……」と諸が暖爐代りと思得てゐる諸曲第二藝術論者（？）の主唱に依り、當會場は先づ金春の富士太鼓から始まつた。ところが第二會場は、金春と寶生の合同會場であり、それに高安流が加はつてゐるので、これを旨く按排しなければならぬ。……そこで、寶生さんいかに、高安さんいかに、春さんいかに、と謙讓な人達を無理におもめた結果は次の様な奇妙な組合せになつてしまつた。

梅若は齋藤有弘師の獨吟

(四目) (シテ) (地)

羽衣 寶生 高安 金春
紅葉狩 寶生 高安 金春
鶴舞 高安 金春
船舞 高安 金春

一曲を三流で共演するなどは、先づ本會を以て嚆矢とするであらう。お仲間のお少い流儀でも斯の様な方法をとれば、各流共結構面白く語るものといふことを、お蔭様で發見することが出来た。

一度、金春、金剛、喜多、高安等の下掛の連合素謡會や、觀世、寶生、梅若等の混謡會(?)を聞いてみたいものだと思ふ。

當日、御來會下さった本川秀男先生並に深泉太郎先生の御芳情に深く感謝の意を表して、擧筆する。

梅若流の事ども

有馬純直

藤元章、齋藤有弘、松山長昭師等が盡された大きな功績も見逃し難い記録と信じて居る。お弟子の中で私の知る狭い記憶では、物故された奥田、宮崎、安藤、澁谷、岡谷、書上、平澤の諸先輩と清水(保)西尾、高橋實豊、高橋卓美、大川、森、森田、小笠原、兼子、庄司、有吉氏等を横濱梅若發達史の功勞者に擧ぐべき人々と

各流儀消息

梅若流の事ども

有馬純直

趣味に生き道を樂しむ大所高所から考へて又諸曲の發展と云ふ點から此の状態が持續する事を切望する次第である。幸に昨年七月に市當局の肝入りで横濱能樂謠曲連盟が結成され市長、當事者は素より會長の人格識見から考へて此の希望はよりよい方向に進むであらうと樂しみにして居る。

それはさて置き、星移り歳代り先人去つた今日、梅若流と其流友の消息を少し書くとする。

先聖諸氏が永年に亘つて扶植されたお蔭と後継の方が其の衣鉢を襲いで精進された熱意によつて相當数の流友があつたけれども、戦災によつて離散疎開されたため終戦後師弟間でも流友同志でも連絡がとれず、時折人傳つたので自然疎遠を深めたが、人心が平靜に廻り、心に響ひと餘裕が出るに從つて趣味を追ふ氣持が蘇り、一方先生方も藝道に本腰を入られる様になつたので、茲一、二年來急速に發展して來た折しも連盟の結成によつて新舊人の動靜や所在がハッキリした思ひ掛けない收獲と相俟つて更に拍車をかけられ、益々連絡も密になつた。

終戦以來いく度か有志間の話題となり乍ら實現し得なかつた横濱梅若會復活がこれを機會として急に具體化し九月廿六日急見總持寺に復活大會を開催した所、當日は合符の雨天であつたに係らず約百八十名の方々が參會され豫期以上の盛會であつた。當日は三合場會員の素謡を開き、之が終つてから宗家六郎の仕舞菊蕙童、松山、小泉、齋藤諸先生の素謡、紅葉狩と六之返、安弘、佐藤、木村諸先生の素謡後寛があつた。久し振りに見る宗家の仕舞諸先生の素謡に參會者は大に得る所があつた。非常に喜ばれた、殊に若宗家の名調に會員は恍惚として水を打つた静けさであつた。

宗家は此會が六郎として最後の出演で若宗家六郎に宗家と六郎を譲り名人實を襲名されたのである。六郎が横濱に梅若味に過ぎたのは時を得た記念すべき復活に最後の六郎の名に於て出演されたのは奇しき因縁だと思ふ。

斯くて横濱梅若會は復活し、當日來會された人々は何年振りでお互の息災を祝福し合ひ色々と思ひ出や昔話に舊交を温め梅若六郎 横濱市鶴見區 松山長昭 同 中區花 齋藤有弘 同 中區大 佐藤元章 同 中區大 齊藤有弘 同 鶴見區 木村延之 同 磯子區

数字廻し

次の曲目をお當て下さい。五つ出来れば鐘が鳴ります。(答は四頁にあります。)

一院の御使
二本の杉に着きにけり
三つの車に法の道
四の宮や河原の
五つの鼓はいつはりの
六道の辻とかや
七賢充滿の寶を降らし
八大龍王は海上に
九曜の曼陀羅の光明
十乘の床のほとりに

然し例の万六の分裂によつて師範も二等の人も一般流友も二手に分れてしまつたのは何として梅若流にとつては大きな打撃で實に惜しい出来事であつたと泌々と感じられる。尤も之は流儀としての分野から親た問題であつて愛謡家の見地から見れば別段の影響も寂寥も感じて居ない。

他の地方によつては分裂に於ては昨の諸友、今は仇かの様に兎角對立的の感情を持つ所があるに耳にするけれども横濱にあつてはお素人の人々には全然そんな氣配さへなく誠に和やかに交話して居るのは美しい事だ。觀世、梅若の會を催した時にはお互に應援し合つて居るのは實に嬉しい事である。

二 高安流について

松村利雄

能樂には仕手方と三役(脇方、囃子方、狂言方)があつて、一曲の能を演技することは既に御承知の通りであります。然して各役には仕手方の流儀の外に脇方にも、囃子方にも、狂言方にも、仕手方と異つた夫々の流儀があります。一曲の能を

この場合の脇方の心得としては第二役者として仕手方を輔佐し、その舉動は勿論、音調等も仕手の引立つ様に、そして又位取等に注意して諸ふことが肝要とされて居ります。

又大臣脇とか僧脇とかに依る役々にも夫々の心得があることは言を俟ちません。

脇方には仕手方の演ずる程の華やかさはありません。然し例へば次第で出場し、道行を演じた後舞臺の脇柱の陰に寂然と只座してゐる時でも、一曲の能を完成さす爲には身魂を盡した緊急を以て望んでゐなければなりません。

脇方の流儀としては、

福王、寶生、高安、春藤、進藤の五流がありました。現在では福王、寶生、高安の三流が藝道を繼いでゐます。

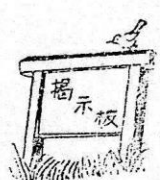
高安流は流祖は金剛兵衛の子が分家して高安伊左衛門と名乗り脇方を創設し是れが高安家の始祖であります。その後代々金剛流の脇方として續いて來ました。現在には三代滋男氏が名古屋に在りし宗家として流儀を統べてゐます。

東京中心の舞臺に出動藝道に勵んでゐる高安流の職分は左記の通りです。

市川市 豊島十郎
大宮市 稲葉實
川崎市 和泉太郎
同 和泉勉
横濱市 松村利雄

中村會長さま：
昨日は失禮しました。愈々日本を代表する横濱市主催の貿易博の植栽落(演藝場)に古典藝術の代表である能樂の上演企画が要るのではありますまいか。

中村會長さま：
それはさて置き、折角の各流連盟となつた以上は、何うしても大會の折は各流とも満足するといふことにならなと、結



會員の聲

矢島 藤一

一 理事會より歸りて

が寄附をしながら當日その開場式に何がどう行はれたかも知れない状態に置かれることを考へるとき、もう一段と再検討が要るのではありますまいか。

中村會長さま：
それはさて置き、折角の各流連盟となつた以上は、何うしても大會の折は各流とも満足するといふことにならなと、結



減びゆく文化財(二)

局集つた會員も離れてゆくようになるでせう、それには其の席上でも申述べたように、各流人に向く企畫が必要となつてきます。そこで興味を中心(と云つては失禮かも知れないが、所詮は趣味の向上なのであるから)と

法隆寺の金堂が焼けてから、急に參觀人が増えたさうである。能が減びたら、能の研究が盛んになる事であらう。能も日本の文化財の一つである。當事者よ、能をこのまゝにして置いて、あとで悔いることなきや。

故に現代日本は、世界的文化財たる「能」を所有する資格がない。と云つたらどうであらうか。

また同じ曲目に各流から、文化財補強の一本の釘である。損得で考へたら馬鹿々々しいが、大所高所から協力したいものである。

政府は文化國家だの何の掛牌ばかりで、國立の能樂堂一つ建てやうとはせず、能樂師の或者は己れの生活のみに汲々として藝道の研鑽を忘れ、お素人は己れの流儀の謡だけで満足し、一般は能を骨董視して、今はその存在をすら知らない。

二年餘に亘つて作り直すと四度、鑲骨彫身の最後の作品も、遂に舞臺で使ふには到らなかつた。能面二つ取り上げてみても、古人と今人の差は斯くの如しである。

伊勢山能樂堂の想ひ出

清水保次郎

中村會長さん：諸人の通弊として集まればお互に堪能するまで誦つたり舞つたり、徒らに自己満足にとらはれて、この感強いようでは、もつと視野を擴げて能樂と云い、謡曲と云うものを、眞の日本藝術の眞髓として守り育て、行く爲には、劃期的な力強い運動が切に望ましいのでありませう。(二画、三稿)

横濱にも伊勢山に本格の能樂堂があつたことを御記憶の諸君もあることと思ふが此能樂堂が大震災で灰燼に歸し爾來廿有六年横濱には舞臺がない

爲め思ふやうに演能が出來ぬのは遺憾である。震災後開港記念會館で數回、ホテルニューグランドで一度假設舞臺にて催し其後毎年正月には野

深居の假設舞臺にて催會することになつて居たのが敗戦で繼續出來ぬやうになつてしまつた。

伊勢山能樂堂は明治二十六年五月に落成せしものなるが當時斯道に熱心なりし精力家藤野善輔氏(七十二歳震災のため逝去)が主として幹線せられ當時横濱の豪商連茂木、原、小野、大谷、増田、其他同好者の據金も以て新築し後年横濱能樂會は此舞臺を伊勢山大神宮(奉納したものである)に浮かんで来る。

日展の特選作家である木彫家の某氏に、能面(小面)を作つて貰つたことがある。その前に能を何回も見せ、更に小面の逸品をも親しく見せて、本人も自信満々、腕を振つたのである。然るに結果は見事失敗であつた。

伊勢山能樂堂の催能は觀世宗家と梅若一門と組んで演じたこともあり又梅若一門だけのこともあつた。又實生流其他各流の演能も時々行はれた。三井様、時伊藤等東京の素人天狗の演能も屢々拜見が出来た。藝野善輔翁は市に於ける最も有力なる熱心家で梅若實生先生に師事して研究を重ね頻々演能もなされ梅若と密接の關係があつたから伊勢山能樂堂の主宰者たる同氏により催ふされる御能は梅若一門の出演が最も多かつたのは當然で實先生は八十歳位の高齡になつても來演して後見もし地の臨時來觀者は無料にて觀能し得ることもなつて居た私が最初觀能せし頃即ち明治三十五年頃頃は觀能の人々は男女共皆な黒紋付羽織で婦人の洋装なきは勿論男子も洋服に

奈川高木山の御大で大好酒家だ觀能のときも御持參の一本をチビ〜飲んで居られた開く處に引出一本を忍ばせ飲みながら執務して見へたものと、現今は觀能も男女共洋装の方が多数であつて紋付羽織着用の男子は一人も見受けられぬが往時を顧みると如何に能の御能拜見と云ふ光景が目

福で有難かつた私なども

扇の構へ方

扇の構へ方には眞行草の三つの區別がある。眞の構へは要の上の骨の所を右手に持ち右膝の上に置き扇の先を膝の中へ下ろす。

草の構へは要の上部を右手に持ち右膝の上にのせ左手の掌にて左の膝の上にうけ地紙の所を軽く握る。

眞の構へは將に舞はんとするに便利なる構へとして、金春、觀世、實生の三流にては素謡、囃子、仕舞、一調等の節も皆此の構へをし、金剛と喜多の二流は多く草の構へを用ゐる。但し金剛、喜多もしては眞の構へをなすこともあり。樂屋の申合せの場合は何流も皆草の構へである。(M生)

型の比較

二月二十七日午後、磯子の大川重吉氏邸の敷舞

て横濱が謡曲の盛んであつた御蔭だから此能樂堂の想ひ出は誠に深いものがある。昭和二十四年一月記之)

純粋な藝術的立場から言へば、或る程度の自由な表現も許されて良と思ふが、現在は餘りに様式化されてしまひ、従前に形式を尊んで創作的情熱もなく、己が流儀にのみ固執して、せいゝ傳統保持に汲々たる有様は、感心したことではな

歌抄

音曲は唯大竹の如くにて直に清くて節少なかれ。謡はんと思はば腰をはりいだし一間真中のききを見るべし。氣を呑みて心を鎮め下腹に力を籠めて謡ふべきなり。息つきは静に心鎮めつつ人に知らさでつぐべかり。塵よきは生れながらの音曲よ秀づるまでに稽古あるべし。

能樂鑑賞の會

日時 昭和二十四年四月廿六日午後一時始
會場 金澤區六浦町 關東學院講堂
(講演) 能樂について 三宅 襄
(狂言) 末廣がり 山本東次郎
主催 金澤謠曲同好會
後援 財団法人能樂協會
同 六浦中學 P・T・A
同 金澤中學 P・T・A
同 金澤區 役所
同 神奈川新聞社

附記

「羽衣」や「末廣がり」は、國定教科書にも載つてゐる代表的な曲目であり、教育者も生徒も、一度は見ておく必要があり、連盟の會員はもとより、廣く一般の御來場を歓迎致します。
尚、會費は不用です。因に本會は金澤謠曲同好會々長三村俊彰氏の斡旋によるものであります。

連盟會報投稿規定

一、内容は、各流消息、琴論會々報、研究、論説、隨筆、詩歌、會員の聲、建設的提言、會員への連絡事項、其他本連盟に關係ある事項。
二、必ず原稿用紙を使用し、楷書で、丁寧に書くこと。
三、一題目に付、四百字、原稿用紙一枚以内のこと。
四、原稿締切は、二月、五月、八月、十一月の各末日とし、之を翌月編輯する。
五、投稿は編輯部に一任せられたい。
六、投稿先は西區老松町二七 行易報覽會事務局内 横濱市民生局生活文化課内 横濱能樂謠曲連盟編輯部宛とする。

能樂之詩(二)

會報を郵送するのは並々ならぬ手数と経費がかゝりますから、各理事、相談役又は幹事若しくは各會の世話役が、豫め受持の會員名簿を本連盟に提出し、その分の會報を一括してお受け取り下さい。
尚、會費の徴収も同様にお願ひ致します。何卒一括してお拂下さるやうお取計ひ願ひます。
受持會員名簿は、遅くも三月末日迄にお送り下さい。(係)

能樂之詩(二) 清水惠堂

青陽佳氣滿乾坤 天子光臨不老門
祥鶴瑞鳥來獻壽 月宮仙樂袞衣翻
櫻 能 野
春佳筵興櫻櫻 難成花友訴心惜
櫻 櫻 櫻 櫻 櫻 櫻 櫻 櫻 櫻 櫻
抄得櫻花與櫻子 依花再會好因緣

數字廻しの答

- 一、八鳥 二、玉葛 三、東北 四、竹生鳥
五、龍太鼓 六、熊野 七、羽衣 八、岩船
九、弱法師十、塗上

新會員名簿

Table with columns for member names, addresses, and other details. Includes names like 大田保一, 北村信男, 田口 薫, etc.

今迄に發表された會員名簿中、若し住所變更、其他、補正を要する場合は編輯部宛御申出願ひます。尚、脱漏等のありました場合は、次號に掲載致しますから、氏名、流儀、住所を明記し、御連絡願ひます。(編集部)